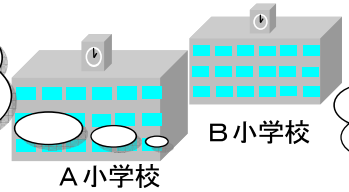


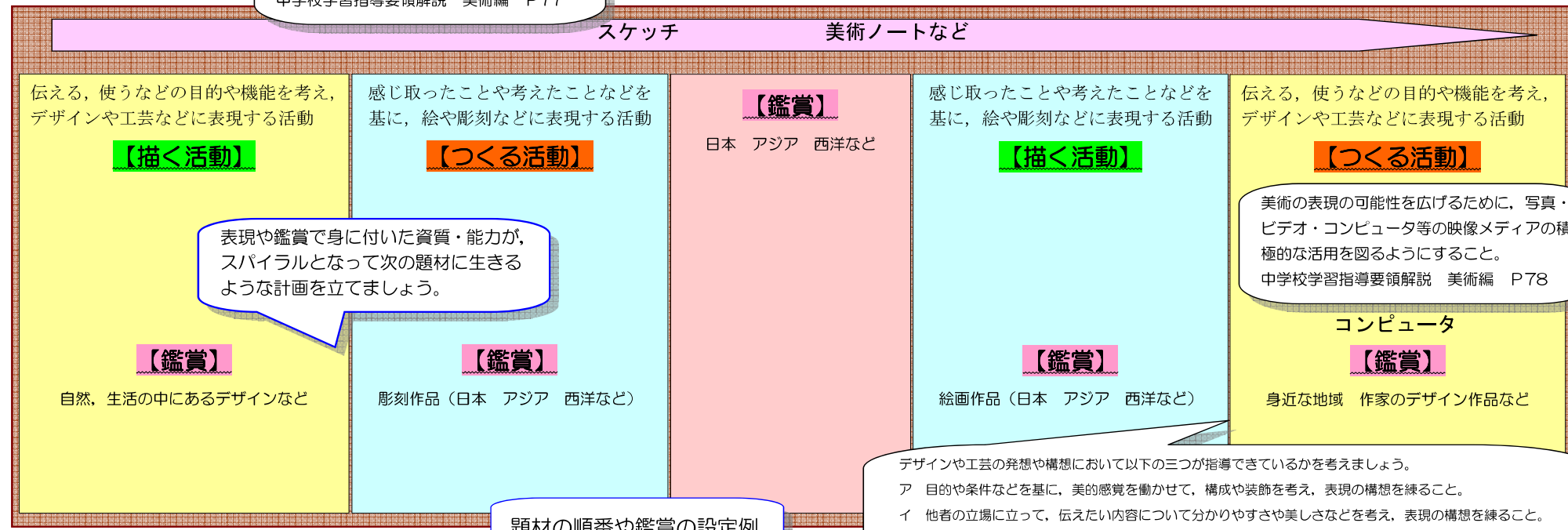
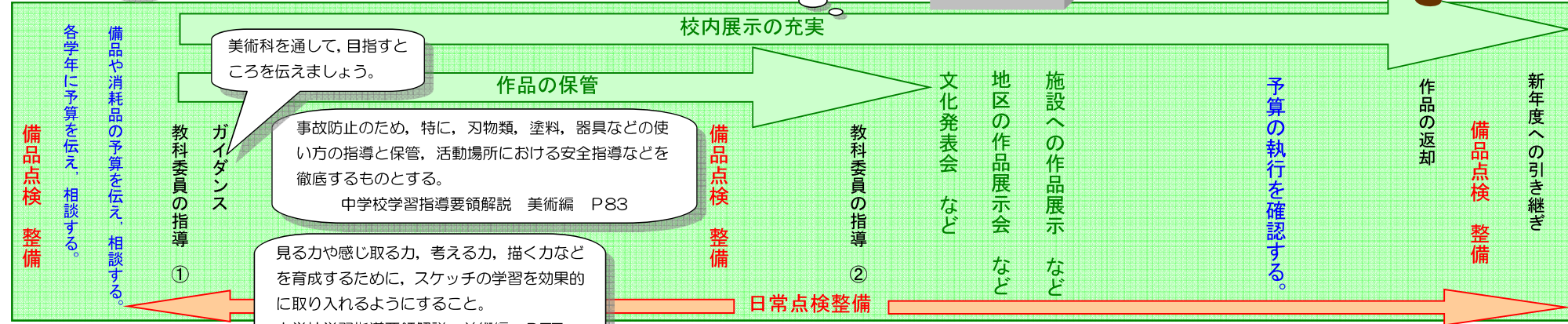
5年間の計画(例)  
中学校 第1学年

校区の小学校では、どのような題材を設定しているのだろうか。  
子どもたちは、どんな経験をしてきているのだろうか。

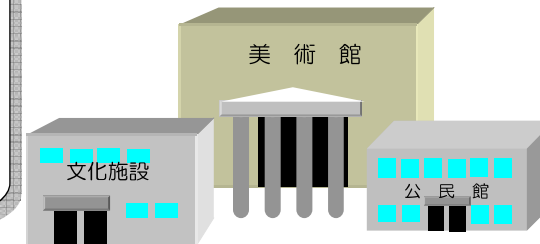


小学校と合同展示会をしたり、授業を見せ合ったりするのはどうだろうか。

地域の人材・素材を活用したり、施設などと連携したりすることはできないだろうか。

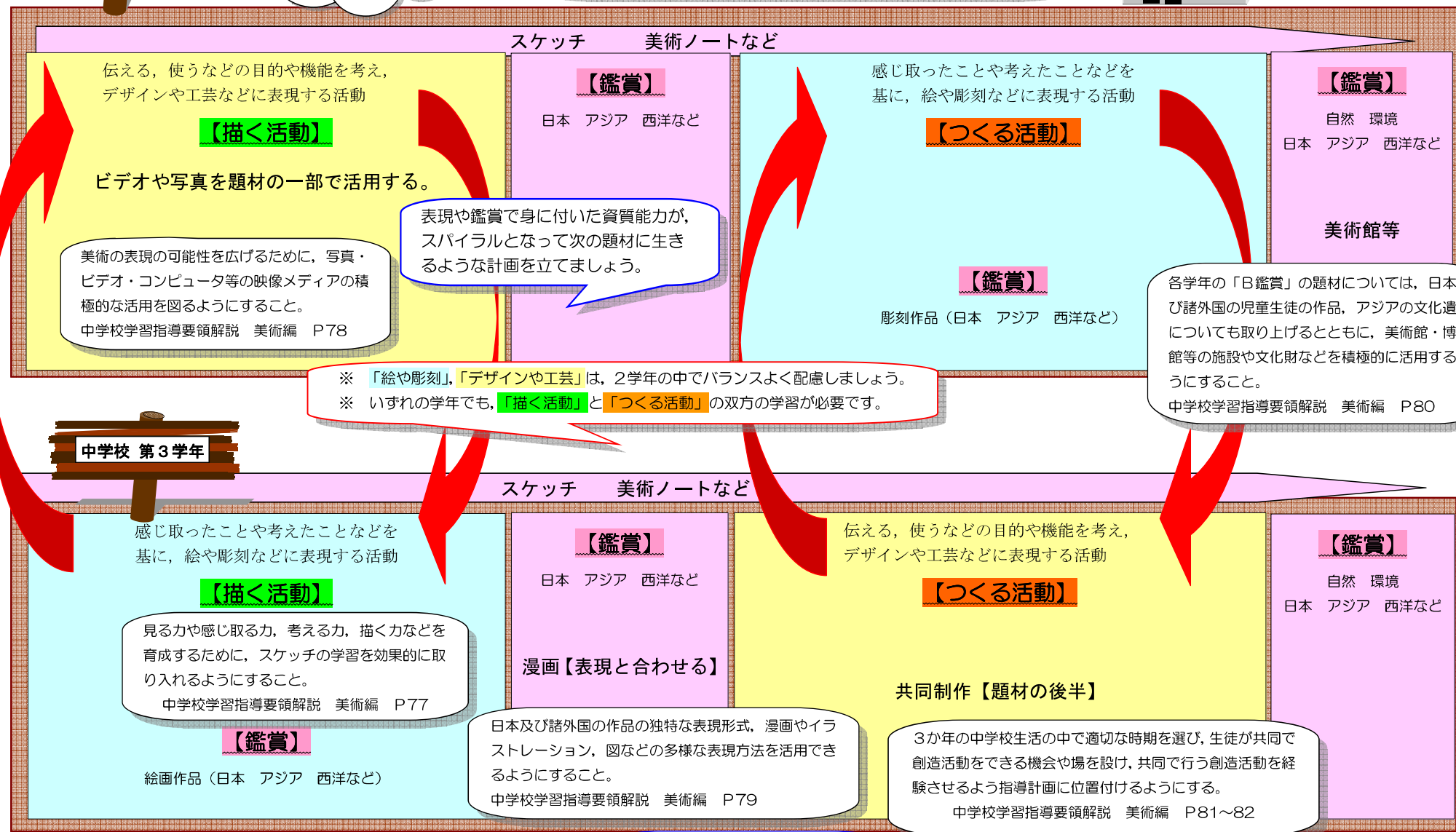


題材の順番や鑑賞の設定例



校区の小学校や、中学校の第1学年でどのような題材を経験しているのだろうか。

デザインや工芸の発想や構想において、以下の三つが指導できているかを考えましょう。  
 ア 目的や条件などを基に、美的感覚を働かせて形や色彩、図柄、材料、光などの組合せを簡潔にしたり総合化したりするなどして構成や装飾を考え、表現の構想を練ること。  
 イ 伝えたい内容を多くの人々に伝えるために、形や色彩などの効果を生かして分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練ること。  
 ウ 使用する者の気持ちや機能、夢や想像、造形的な美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練ること。 **題材を三つ以上に分けて設定することも考えられます。**



美術の表現の可能性を広げるために、写真・ビデオ・コンピュータ等の映像メディアの積極的な活用を図るようにすること。  
 中学校学習指導要領解説 美術編 P78

表現や鑑賞で身に付いた資質能力が、スパイラルとなって次の題材に生きるような計画を立てましょう。

※ 「絵や彫刻」、「デザインや工芸」は、2学年の中でバランスよく配慮しましょう。  
 ※ いずれの学年でも、「描く活動」と「つくる活動」の双方の学習が必要です。

各学年の「B鑑賞」の題材については、日本及び諸外国の児童生徒の作品、アジアの文化遺産についても取り上げるとともに、美術館・博物館等の施設や文化財などを積極的に活用するようにすること。  
 中学校学習指導要領解説 美術編 P80

題材の順番や鑑賞の設定